

3月14日

義と認められて家に帰った取税人  
ルカ福音書18章9～14節

18:9 自分を義人だと自任し、他の人々を見下している者たちに対しては、イエスはこのようなたとえを話された。

18:10 「ふたりの人が、祈るために宮に上った。ひとはパリサイ人で、もうひとは取税人であった。

18:11 パリサイ人は、立って、心の中でこんな祈りをした。『神よ。私はほかの人々のようにゆるる者、不正な者、姦淫する者ではなく、ことにこの取税人のようではないことを、感謝します。

18:12 私は週に二度断食し、自分の受けるものはみな、その十分の一をささげております。』

18:13 ところが、取税人は遠く離れて立ち、目を天に向けようともせず、自分の胸をたたいて言った。『神さま。こんな罪人の私をあわれんでください。』

18:14 あなたがたに言うが、この人が、義と認められて家に帰りました。パリサイ人ではありません。なぜなら、だれでも自分を高くする者は低くされ、自分を低くする者は高くされるからです。」

ローマ書3章の神の義を  
2月21日、現れた神の義、  
2月28日、信仰による神の義、  
3月7日、贖いによる神の義  
と説教をさせていただきました。

今日は角度を少し変えて

「義と認められて家に帰った人」というテーマでル  
カ18章から語らせていただきます。

マナの会ではマルコ10章を学んでいます。

先週は10章45節の所を学びました。

「人の子が来たのも、仕えられるためではなく、  
かえって仕えるためであり、また、多くの人のため  
の、贖いの代価として、自分のいのちを与えるた  
めなのです。」

ルカ18章はマルコ10章の平行箇所です。

福音書の中で義とされたと書かれてある  
大切なところですよ。

18:10 「ふたりの人が、  
祈るために宮に上った。  
一人はパリサイ人で、  
もう一人は取税人であった。



18:11 パリサイ人は、立って、心の中でこんな祈りをした。『神よ。私はほかの人々のようにゆるる者、不正な者、姦淫する者ではなく、ことにこの取税人のようではないことを、感謝します。

18:12 私は週に二度断食し、自分の受けるものはみな、その十分の一をささげております。』

このパリサイ人は  
立って心の中でこのような祈りをしました。

週に二度断食している  
収入の十分の一は  
きちんと献金しています。

この人は  
自分は正しいと確信している。  
ほかの人を見下している。

このパリサイ人によって

18節から富める青年がイエス様の所に来てい  
ます。

先生、どうしたら永遠の命を受け継ぐことができ  
ますか。

この青年もあのパリサイ人と同じく  
幼い時から律法はきちんと守っています。

殺してはならない、  
盗んではならない、  
姦淫してはならない、  
偽りの証言をしてはならない、  
父と母とを敬え、

イエス様はこの青年に  
あなたが持っているものをすべて売り払い貧しい  
人たちに分けてやりなさい。そうすれば、あなた  
は天に宝を持つことになります。そのうえでわたし  
について来なさい。彼はこれを聞いて、非常に  
悲しんだ。大変な金持ちであったからである。

この二人のパリサイ人は律法を守っていますが  
義とされず、救われぬ、天国に行けない道を  
歩むことになりました。

取税人は遠く離れて立ち、目を天に向けようと  
もせず、自分の胸をたたいて言った。

『神さま。こんな罪人の私をあわれんでくださ  
い。』

18:14 あなたがたに言うが、この人が、義と認め  
られて家に帰りました。パリサイ人ではありません  
ん。なぜなら、だれでも自分を高くする者は低く  
され、自分を低くする者は高くされるからです。」

もう一人目の見えない  
物乞いをしている人が登場します。



18:35 イエスがエリコに近づかれたころ、ある盲人が、  
道ばたにすわり、物ごいをしていた。

18:36 群衆が通って行くのを耳にして、これはいったい  
何事ですか、と尋ねた。

18:37 ナザレのイエスがお通りになるのだ、と知らせる  
と、

18:38 彼は大声で、「ダビデの子のイエスさま。私をあ  
われんでください」と言った。

18:39 彼を黙らせようとして、先頭にいた人々がたし  
なめたが、盲人は、ますます「ダビデの子よ。私をあわ  
れんでください」と叫び立てた。

18:40 イエスは立ち止まって、彼をそばに連れて来るように言いつけられた。

18:41 彼が近寄って来たので、「わたしに何をしてほしいのか」と尋ねられると、彼は、「主よ。目が見えるようになることです」と言った。

18:42 イエスが彼に、「見えるようになれ。あなたの信仰があなたを直したのです」と言われると、

18:43 彼はたちどころに目が見えるようになり、神をあがめながらイエスについて行った。これを見て民はみな神を賛美した。

取税人もこのバルテマイと呼ばれる目の見えな  
かった男も

イエス様に癒され、赦され、義とされてイエス様  
について行きました。

パリサイ人や富める青年と  
義とされた取税人、癒されたバルテマイ、  
どこが違っているのでしょうか。

# 自己認識と イエス様認識の違い

## 自己認識

パリサイ人、富める青年

自分を義としている、

自分を正しいと自認している。

人と比較して、人と相対的には正しい。

しかし神の前の正しさではない。

人を見て神様を見ていない。

取税人

胸を打ちたたいて

神様、罪人の私を憐れんでください。

神様の前でも人の前でも

罪あるものと認めていた。

今まで心の目が見えなかったので

人に対して残酷なこと、

非情なことを平気で行っていった。

バルテマイ  
ダビデの子のイエス様。  
私をあわれんでください。  
主よ。見えるようにしてください。  
と叫んでいます。

イエス様をダビデの子と呼んでいます。

メシヤであるイエス様、

救い主であるイエス様、あわれんでくださいと呼  
んでいます。

イエスさまは単なる先生ではなく  
神からの救い主、人となられた神様と  
信じて叫んでいます。



あわれんでください、と叫んでいます。

周りの人は黙らせようとなりました。

バルテマイはイエス様に金品の物乞いをしている  
のではありません。

救ってください、肉眼の眼が見えることだけでなく  
霊の眼が開かれ、神様の真実がわかるように、  
あわれんでください、救ってくださいと叫んでいます。  
す。

自分は目が見えない。  
肉眼の目が見えないだけでなく  
心の目が開かれていないので  
人を恨んだりした。  
霊の目が開かれていないので  
運命を呪ったりした。  
神様の真理がよくわからない。  
神様を分からせてください。  
信じさせてください、見えるように  
してくださいと叫んでいます。

見えるようになれ、  
あなたの信仰があなたを救いました。  
救われる、義とされることを  
イエス様はここで目が見えるようになる事実で教えて  
おられます。

心の目が開かれること。

霊の目が開かれること。

霊の目が開かれて、自分の罪が見える、  
心の汚さが見える。

あのパリサイ人の霊の目が開かれたなら、  
自分の汚さがいやっというほど見たと思われれます。

バルテマイは義とされ、  
救いをいただいた後、  
立ち上がって神をあがめながら  
イエス様について行った。

世を恨む、世間を呪う、運命を呪う、  
ここから立ち上がって、  
神をあがめながら  
イエス様について行きました。  
私たちもイエス様について行きましょう。

祈り

主イエス様、あなた様は世の光です。私たちの  
心の暗闇を照らしてください、

心の罪、汚さを照らしてください。

その光で自分の愚かさ、罪を認めさせてくださ  
り、イエス様を救い主と信じて心にお迎えできた  
ことを感謝します。

日々イエス様の光の中を歩ませてください。

自分の罪や愚かさをしっかりと見つめて

主の光で癒し、成長させてください。

主の御名によって。アーメン。